

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で決めた理念を、目に付き易い、至る所に掲示し実践できるように取り組んでいる。	地域に密着した生活を送ることを理念の中に取り入れて、ユニット独自の理念も作成されていました。日々目に付くよう、各ユニット・トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、ミーティングでも確認の機会を設け、理念の実践に向けた話し合いが行われています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う行事に地域の方たちを招いたり、普段もドライブや買い物に出掛けるなど日常的なふれあいも大切にしている。近所の方がホームに入って来やすい雰囲気作りも心掛けている。	ホームのクリスマス会やありがとう会、作品展には地域の方も参加していただいています。また、地域の方が野菜を持ってきてくれたり、阿賀野高校の文化祭へも出かけるなど地域との交流に努めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の集まりに参加させて頂き、ご自宅での介護の様子をお聴きしたり、助言させて頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し状況報告を行っている。課題について話し合い改善に努めている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表に出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取組みがされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の高齢福祉課の方に参加してもらい、ホームの活動や課題について助言を頂いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。また、相互に行き来し、相談や協力ができる関係が構築されています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠をしていない。事業所内の研修で身体拘束の弊害について全ての職員が認識できるようにしている。	外部研修への参加や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。やむを得ず行う場合はご家族の同意と状況報告がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員が職員会議にて報告し防止に努めている。	身体拘束同様に新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、自己学習を行うなど理解を深める事ができるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を用いながら丁寧な説明を心掛けている。不安な点や疑問についても、その都度解決できるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで意見や要望を頂き反映するようにしている。ご要望ノートを作り、職員間でも情報を共有している。	9月の敬老会の後にご家族同士の座談会を行い、ご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、ご家族には面会時のほかクリスマス会やありがとう会にも参加してもらい、意向を確認する機会も設けています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談で話し合いを行っている。また、事業所内でのアンケートにより、口頭で伝えにくい意見も汲めるように努めている。	毎月の職員会議や年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。また、会社でも職員の思いを確認するアンケートを行っており、職員の意見を把握できるように努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、各職員ごとに自分の目標を設定し半年ごとに達成状況を評価している。別に人事考課を行い面談をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に事業所内部で研修が行われている。その他に希望する外部研修も受けることができる機会が設けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所の研修会や交流会に参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で利用者様とのコミュニケーションを大切にしながら、安心、安全を保持できるように支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会された時、要望をお聞きし相談の機会を作らせて頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の現状を受け入れ、その人らしく生活でき、家庭での習慣等を継続できるように対応を心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事や言葉遣い等、利用者様より職員が学ばせて頂き感謝できるような場を作っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、花火大会等、ご家族の方を招待し交流の場を作っている。面会時、夜間や日中の様子等お伝えしている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1回広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のクリスマス会や敬老会に参加していただいたり、ご利用者と一緒に月岡温泉へ旅行に行くご家族もいて、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御親戚の方や、ご近所の方が、いつでも面会に来て頂き、ご一緒に過ごして頂いている。	センター方式を採用し生活暦をより把握できるようにしており、ご利用者の要望に応じて行きつけの美容室や図書館に本を借りに出かけたり、スーパーへの買い物も一緒に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が、関わり合えるような席作りをし作業やレクリエーションを通じて交流がもてるような場の設定を心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族が野菜などの差し入れを持ってきて下さったり、ボランティアとして手伝いをして下さっている。必要に応じて支援が行えるよう努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や支援の中で、その方の要望に応えることのできるよう努めている。困難な場合も面会時に話を聴くなど意識している。	サービス担当者会議にはご家族にも参加していただき、ご家族と話し合い検討をし、面談によるご利用者やご家族からの聞き取り情報は介護要約として職員間で共有するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用やご本人の言葉、ご家族からの情報を大切にして、把握に努めている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。また、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加記入するようにしています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックやケース記録を毎日記入している。変化があった場合は、ご家族に連絡したり、職員会議でカンファレンスを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングや随時カンファレンスを行いながら現状に即した介護計画になるように話し合っている。利用者様にご家族を通して得られる意見を反映できるように努めている。	毎月行われている全体ミーティングにおいて各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。半年に1回の期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、全職員が参加する全体ミーティングと毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	介護計画の目標と毎月のモニタリング項目に連動していないところもありましたので、連動できるよう検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の用紙には、利用者様ごとに短期目標と援助内容が記入しており、それに即した内容の記録を心掛け見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望される事をできるだけ受け止め、可能な限り実現できるよう心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所で行われる文化祭、音楽会、いきいきクラブへ参加したり、図書館へでかけ地域の方々との交流をはかっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、日々のバイタル、様子を記入した医療連携表を持参して頂き、指示を頂いている。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面や電話にてご利用者の情報伝達が行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の会話や支援の中で、その方の要望に応えることのできるよう努めている。関わり合いの中で気づいた事や変化等の情報を共有し早期に対応できるように心掛けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、定期的にお見舞いに出向き、状態や様子を把握できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護についてはご家族様へ現状を報告し対応を検討している。職員会議等で看取りについての話し合いを行っている。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要であれば最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でも研修を実施し、その方針は共有されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置と通報訓練を行っている。日中は主治医、夜間は救命センターに指示をもらい連携を習慣化している。	年1回救急法の講習が会社で行われ職員が受講されているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への徹底もされており、事故発生時にも適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い災害時適切な対応ができるように努めている。消防訓練には地域の方にも参加して頂いている。	年2回の避難訓練には地域の方にもご参加いただいております。夜間を想定した訓練のほか地震を想定した訓練も行われています。	非常用食品の確保はされていましたが、調査時点で消費期限が切れている品もありましたので、定期的に確認されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は、人生の大先輩である為、丁寧な言葉遣いまた地域にあった言葉かけを行っている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、2ヶ月に1度接遇のチェックを行い、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や入浴等、希望を聞かせて頂き、こまやかに対応できるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援ができるよう常に心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の方に来所して頂き、ご本人様の希望に沿ってカットして頂いている。洗顔後のお手入れなどされている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや盛り付け、食事の後かたづけ等、できる事をして頂いている。	ご利用者にも、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、片付けも協力してもらっています。また、外出に出かけたり、ホームの畑で育てたトマト、なす、かぼちゃの収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと献立を作成している。食事、水分摂取量を記録し様子を観察している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯の方には、ポリドントさせて頂いている。自歯の方には口腔ケアの声かけを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思表示が分かりづらい方に関しては、排泄チェック表などを参考にしながら、トイレへお誘いしている。	水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食前には、体操を促し希望する方は参加している。飲み物も色々な種類の物を用意し水分も多く摂れるように工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の気分により、時間や日にちをずらしたり、同性の職員を希望する方には、要望に応じて対応したり、入浴で楽しめるよう支援している。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。月岡温泉の足湯にもご利用者と一緒に出かけています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も疲れた時には居室で休めるようにしている。気持ちよく休めるようにシーツ交換表を用いて清潔にも配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を配る際に使う袋には薬名の他に用量や薬の目的を記入して、どのような薬を内服しているのか職員全員が把握できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの自発性を大切にしながら家事活動を中心に支援している。歌番組のビデオ鑑賞や合同で行う体操の時間などを設けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やぶどう狩り等の季節にあった外出行事を行っている。その他にも利用者様の要望に応じて買い物、図書館、博物館などにも出掛けている。	季節に応じたお花見やあやめ見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方もいられるが、基本的にはご家族の方をお願いしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より届いた手紙に返事を書かれたり、ご希望があれば電話を自由にして頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は涼しく青色などを多く取り入れた飾り物、冬は暖色系の赤色で季節を感じてもらえるようにしている。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じる花やご利用者の習字の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座られテレビをご覧になりながら、お話されたりしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で長年使われていた物を持って来られ安心できるようにしている。	ご利用者の愛用していたものの持込みや写真の掲示など、一人ひとり個性がある部屋となっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	習字、編み物など好きなことをして頂いている。		